

大歳社

大歳社は、初辰まいりの最後の神社である。祭神は収穫の神である大年神（おおとしのかみ）である。大年神は種貸社と楠珥社に祀られている神々の兄にあたる。また、神道の中心的神である大国主と新年に関わりがある。

大歳社は初辰まいりの終点として、賢明な投資を行い、ビジネスをきちんと育てた後の成功を表している。江戸時代（1603～1867）のあるガイドブックに、大阪の商人が借金の取り立てに困ったときに大歳社を参拝したと書かれている。

大歳社への参拝で、種まき（種貸社の粃種を表す）から作物が育ち（楠珥社）、収穫するという象徴的な過程を経ることになる。みのりまいりで粃種を楠珥社で稲穂に交換した参拝者は、大歳社で稲穂を米の袋に交換できる。大歳社の本堂の隣には「おもかる石」があり、この石を使って願いが叶うかどうかを占うことができる。

大歳社の参拝時間は午前 6 時から午後 4 時までである。お布施は浅澤社を合わせて 1,000 円からとなっている。